平成30年度

目黒区学力調査と授業改善プラン

- I 「目黒区学力調査」の概要
- Ⅱ 平成29年度「目黒区学力調査と授業改善プラン」の検証
- Ⅲ 「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン
 - ・本校の授業改善に向けた方策(学校全体)
 - ・第1学年~第3学年授業改善プラン
 - ・実技教科授業改善プラン

平成30年8月目黒区立第八中学校

I 「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的 に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリュキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上 を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年~第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。(原則として、特別支援学級に在籍する児童・生徒は対象としない)

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象生徒数(本校)

	1 年	2 年	3 年
対象数	83人	78人	64人
実施数	83人	76人	63人
受検率	100%	97%	98%

(2) 調査内容と実施教科

- ① 学習指導要領に示された目標の達成状況 (観点別学習状況)
- ② 生徒の学習に関する意識
- 1年 意識調査、国語、数学、社会、理科
- 2年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語
- 3年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

(3) 実施日

平成30年4月19日(木)

Ⅱ 平成29年度「目黒区学力調査と授業改善プラン」の検証

(1) 成果

今年度の結果を分析すると、2,3年生に関しては、基礎・基本、活用ともに全教科にわたり目標値を上回る、あるいは同程度の平均正答率であった。これは、「学習カード(振り返りシート)」の活用、ICTの活用、習熟度別少人数授業によるきめ細かな指導、授業規律の確立など、基礎的・基本的な力を育む環境が定着してきたことによるものと考えられる。また、グループ学習やペア学習を意識的に設定する、課題解決的な学習を設定するなどにより、活用する力も身に付いてきたものと思われる。さらに、「朝の読書」により、落ち着いた雰囲気で授業につながることも学習効果を高めている。

数学科と英語科における少人数授業では、習熟度別による指導を主とし、教科学習室の運用が効果的になされており、きめ細やかな指導も伴って、基礎的・基本的な力の定着につながっている。

(2) 課題

各教科とも、基礎的・基本的な学力については、ほぼ目標値を上回る数値であった。ただし、一部の教科において、思考力・判断力・表現力といった活用する力が目標値に対して下回る数値となっている。習得した知識を活用し、探究する力に課題があると言える。一方的に教師が教え込むのではなく、考える時間を確保したり、お互いに交流し合ったりする時間を確保するなど、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等をさらに育成する視点での授業改善が必要である。

また、生徒たちが「やってみたい」と思うような課題を設定し、わくわくする「楽しく分かる授業」 を展開することが課題である。それには単元導入時に、日常生活や社会生活との関連を図り、興味を もたせていく工夫が必要である。

「何を教えるか」という知識の質や量の改善とともに、生徒が「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視するといった視点からの授業の質的転換を図っていくことが課題である。

さらに、各教科の意欲、理解力に個人差が見受けられる現状を踏まえ、生徒一人一人に対する個別の対応も課題である。学習意欲を高めるために、生徒一人一人に対して、家庭との連携、学習指導員・特別支援教育支援員も含めた全校体制での取組が必要である。

1年生については、基礎・基本、活用ともに目標値を上回る平均正答率であった。引き続き、学級経営の充実、より良い人間関係の構築なども含め、多角的できめ細かな指導に努めていく。

Ⅲ 目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

本校の授業改善に向けた方策

- ① 本時の目標や学習の見通しを示し、生徒に身に付けたい力を明確にする。
- ② 授業の中に、意識的に思考をする時間を設ける。教師が一方的に授業を進めるのではなく、考える時間を必ず確保し、習得した知識・技能を活用した授業に取り組む。その際、個別指導、グループ別指導、習熟の程度に応じた指導、興味・関心に応じた課題学習など多様な指導ができるよう工夫する。また、定期考査においても、思考し、表現する問題を工夫し出題する。
- ③ 「楽しく分かる授業」を目指し、課題の発見と解決に向けて「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業を工夫する。学習内容が日常生活や社会生活にどう関連するか明らかにする。
- ④ 各教科で「学習カード(振り返りシート)」を活用し、生徒の学習状況を把握する。「できた」「分かった」の実感を大切にし、「できたこと」「分かったこと」の振り返りを確実に行う。
- ⑤ 数学科、英語科で少人数授業を行う。とくに数学科では習熟度別授業を行い、成果を全教員で共有し、 それぞれの授業に生かす。
- ⑥ 校内研修などを通して、適正な評価・評定について研修を深める。個々の生徒の良い点や進歩の状況 を積極的に評価し、指導の工夫・改善につなげ、学習意欲の向上に生かす。
- ⑦ 授業規律の確立や、朝の読書、校内の環境美化などに全校体制で取り組み、落ち着いた雰囲気で学習ができる環境づくりに努める。基本的な生活習慣や家庭での学習習慣の確立について、家庭にも協力を依頼する。
 - ※ 全教育活動において思考力・判断力・表現力等を育成する観点から、実技教科においても 授業改善プランを作成した。

授業改善プラン 第八中学校 国語科 授業改善プラン

	課題となる領域等	年間指導計画	単元指導計画
	【領域:伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】	① 1 学びをひらく 「漢字の組み立てと部首」	・毎週実施の漢字小テストを振り返る時間を設定する。
第一学年	(観点:言語についての知識・理解・技能) <u>既習事項との関連</u> ・小学校の学年別漢字配当表に示されている漢字を書くことができる。	 (9月) ②4つながりの中で 「漢字の音訓」 (12月) ③7自分を見つめて 「漢字の成り立ち」 (3月) 	・事象や行為、心情を表す語句の量を増やすために辞書を携帯し常に引けるようにするとともに、気になった言葉はノートにき込むよう設定する。
第二学年	【領域:伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 (観点:言語についての知識・理解・技能) 既習事項との関連 ・第1学年までに学習した漢字を読むことができる。 ・小学校で学習した漢字を書くことができる。 ・単語について理解している。	①漢字1 熟語の構成 (5月) ②文法への扉1 単語をどう 分ける? (7月) ③漢字2 同じ訓・同じ音を もつ漢字 (10月) ④漢字3 送り仮名 (3月)	 ○「学年別漢字配当表」の漢字の習熟を図る。 ・授業記録用紙を活用して、毎回の授業で五文字ずつ字形や音訓を確認させる。授業後の点検の際に意欲が低下しがちな生徒を把握して、努力を続けるよう個別の指導に努める。 ・授業の中で間違いやすい漢字や間違いやすい部分を指導する。 ○活用のある自立語と活用のない自立語の性質や働きを理解される中で、単語の分け方を復習させる。
第三学年	【領域:読むこと】 (観点:読む能力)	①3言葉を見つめる 「『批評』の言葉をためる」 (6月) ②2視野を広げて 「月の起源を探る」 (9月) ③6論旨を捉えて 「作られた『物語』を超え て」 (1月)	 ・文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験基づいて、友達と意見を交流する時間を設定する。 ・文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現に注目す時間を設定する。 ・構成や展開、表現の仕方について評価を書く時間を設定する。

授業改善プラン 第八中学校 社会科 授業改善プラン

	1	2	3
	課題となる領域等	年間指導計画	単元指導計画
第一学年	【領域:「我が国の歴史(平安時代の貴族のくらし)」「世界の中の日本の役割(国際連合について)」】 (観点:「資料活用の技能」「社会的事象についての知識・理解」) 既習事項との関連 ・資料を読み取り、習得した知識と結びつけることができる。 ・国際連合について理解している。	(8月~3月) ②歴史「古代までの日本」「中 世の日本」	①各州の自然、農業、文化などの学習では習得した知識を活用して考えさせる場面を設定する。②学習内容の中心となる知識を明確にできるようワークシートを工夫し、知識確認の時間を設ける。
第二学年	【領域:地理「世界の諸地域」 歴史「古代までの日本(古代の東アジア、桓武天皇の政治、室町時代の代表的な文化財)」】 (観点:「資料活用の技能」「社会的事象についての知識・理解」) 既習事項との関連 ・資料を読み取ることができる。 ・学習した内容を理解している。	①地理「日本の諸地域」 (8月~11月) ②歴史「近世の日本」 「開国と近代日本の歩み」 (11月~3月)	①写真や地図、グラフ等の資料から「分かること」を考えさせる場面を設定する。考えたことを文章で記述させる。 ②図や表、絵等の資料から「分かること」を考えさせる場面を設定する。考えたことを文章で記述させる。
第三学年	【領域:地理「世界と比べた日本の地域的特色(各地の気温と降水量の把握)」「日本の諸地域」歴史「近世の日本」「近代の日本と世界」】 (観点:「資料活用の技能」「社会的事象についての知識・理解」) 既習事項との関連 ・資料を読み取ることができる。読み取って考えることができる。・学習した内容を理解している。	公民 「現代の民主政治と社会」「私 たちの暮らしと経済」「地球社 会と私たち」 (8月~3月)	①写真やグラフ、図や表、絵等の資料から「分かること」を考えさせる場面を設定する。考えたことを文章で記述させる。 ②日本国憲法、民主政治、国際社会等の地理、歴史で学習した内容と関連する部分では、既習事項と関連づけて学習を進めて行くようにさせる。

授業改善プラン 第八中学校 数学科 授業改善プラン

	課題となる領域等	2 年間指導計画	単元指導計画
第一学年	【領域:数と計算】 (観点:数学的な技能) 【領域:数量関係】 (観点:知識・理解) 既習事項との関連 ・分数の乗法、除法の計算ができる。 ・分数の四則混合の計算ができる。 ・2つの量が反比例している数量の関 係を選ぶことができる。・	①正の数・負の数 (4月~5月) ②文字の式 (5月~6月) ③変化と対応 (10月~11月)	①単元の後半(乗除の混じった計算の学習)において、小学校算数科(第6学年)で学習した内容(分数の乗除、分数の四則混合の計算をする学習)を振り返る時間を設定する。 ②文字式と数の乗法、除法の学習において、小学校6学年と前章(正の数、負の数)で学習した内容(分数の乗除、分数の四則混合の計算をする学習)を振り返る時間を設定する。 ③本単元に入る前に小学校算数科(第6学年)で学習した内容(比例と反比例の学習)を振り返る時間を設定する。 ③具体的な事象を調べることを通して、比例と反比例についての理解を深めるとともに、式やグラフなどで表し、それらの特徴をとらえる時間を多く設定する。
第二学年	【領域:数と式】 (観点:数学的な技能) 既習事項との関連 ・分数を含む一次方程式を解くことができる。 【領域:関数】 (観点:数学的な技能) 既習事項との関連 ・比例の式から比例のグラフをかくことができる。	①連立方程式(6月~8月) ②一次関数(8月~10月)	 ①単元の前半において、中学1年で学習した内容(一次方程式の解法)を振り返る時間を設定する。単元の後半で問題文を表などを使って表し、問題の内容を整理して具体的なイメージをもって解法を導けるように設定する。 ②単元の前半において、中学1年で学習した内容(比例のグラフ)を振り返る時間を設定する。
第三学年	【領域:数と式】 (観点:見方・考え方) 既習事項との関連 ・問題文とそれを解くための連立方程 式を読み取り、xとyが何を表すの か指摘することができる 【領域:図形】 (観点:知識・理解) 既習事項との関連 ・平行四辺形になるための条件につい て正しく理解している	①二次方程式 (6月~8月) ②図形と相似 (10月~11月) ③円の性質 (11月~12月) ④三平方の定理 (12月~1月)	 ①単元の後半で問題文を表などを使って表し、問題の内容を整理して具体的なイメージをもって解法できるように設定する。 ②本単元に入る前に2年生で学習した内容を振り返る時間を設定する。 ※2年生…2つの図形が合同(同じ形、同じ大きさ)であることを学習している。 ③本単元に入る前に2年生で学習した内容を振り返る時間を設定する。 ※2年生…三角形の角の性質(内角の和、外角の性質など) ④三平方にまつわる歴史的な話を紹介する。図形の面積に注目させ、図を活用し考察する時間を設定する。

授業改善プラン 第八中学校 理科 授業改善プラン

	課題となる領域等	年間指導計画	単元指導計画
第一学年	【領域:地球・生命】 (観点:知識理解) 既習事項との関連 ・人の体のつくりと働きについて学んでいる。 ・植物の養分と水の通り道について学んでいる。	①植物のくらしとなかま (4月・5月)	 ①学習内容の見通しをもたせる。第1学年で「植物」の体について、第2学年で「動物」の体について学習することを確認させる。 ①植物の学習を進めていくことと並行して、我々ヒトの体と比べながら学習を進めさせる。 ①植物は光合成だけでなく呼吸もしていることを確認させる。
第二学年	【領域: 粒子】 (観点: 技能) 既習事項との関連 ・ものの溶け方について学んでいる。	①化学変化と原子・分子 (4月・5月)	①水溶液の濃度計算の復習をする。目に見えなくなった粒の存在を認識し、計算をさせる。①「化学変化と物質の質量」の時間を多くとり、重点的に行う。計算練習の時間を設ける。学び合いの活動を取り入れる。①化学反応式と量的関係の理解を深めさせる。
第三学年	【領域: 粒子】 (観点:技能) 既習事項との関連 ・マグネシウムの質量と、加熱後に生じた酸化マグネシウムの質量との関係を、グラフに表すことができる。	①化学変化とイオン (6月・7月) ②酸・アルカリとイオン (9月) ③酸・アルカリとイオン (9月)	①これまでに学習した様々な化学変化について振り返り、化学反応式を立てる練習を行い、化学反応式が表す意味を理解させる。②化学反応の中でイオンが関係するものを抽出し、電離や中和反応をイオン式で表す練習を繰り返しさせる。③イオン反応式に基づき、中和反応等粒子数が変化する様子をグラフ化しグラフが意味する所を理解させる。

授業改善プラン 第八中学校 英語科 授業改善プラン

	課題となる領域等	年間指導計画	単元指導計画
第一学年	【領域:書くこと】 (観点:言語についての知識・理解) 既習事項との関連 ・会話表現について、理解している。	①Lesson 4 Field Trip 名詞の複数形(7月) ②Lesson 6 My Family Project 友達を紹介しよう 3人称単数形現在形 (11月) ③Lesson 8 School life in the USA 現在進行形(1月)	①例を示しながら、数量によって変化する名詞の形や発音について、単数形と複数形のルールを認識できる場面を設定する。 ①a(n)~、~(e)sを用いて、自分の持っているものや、絵や写真の描写をする場面を設定する。 ②例文から、主語の人称に注目させ、「~する」型の一般動詞が変化する時のルールを、話し合わせる場面を設定する。 ③登場人物の家族紹介文をモデルに自分の家族紹介のスピーチ原稿を作成し、発表させる場面を設定する。 ③映像やピクチャーカードなどから、「~する」と「今~している」の違いを認識し、現在進行形の文の作り方に慣れさせる。 ③例文から、現在進行形を使って、自分の学校の様子を海外に紹介する英文メールを作成する場面を設定する。
第二学年	【領域:書くこと】 (観点:外国語表現の能力) 既習事項との関連 ・英語でたずねる文を書くことができる。(交通手段をたずねる)	①Let's Talk 1 道案内をしよう ・交通手段をたずねる /説明する。 (4月) ②Let's Talk 6 電話をしよう ・依頼する/承諾する。 (10月) ③Let's Talk 7 買い物をしよう ・苦情を言う/提案する。 (1月)	 ①第1学年での学習を復習する時間を設定する。 ・例文を示しながら、既習事項を喚起し、その応用の仕方を学ぶ。 ・さまざまな行先を想定して、ロールプレイングなどで演じることで学びを深める。 ②第1学年での学習を復習する時間を設定する。 ・例文を示しながら、より丁寧な表現法のバリエーションを学ぶ。 ・離し相手との人間関係などを考慮して、ロールプレイングで演じることで表現の違いを考え、まとめる。 ③スポーツ用品店の場面で、さまざまな用具を具体的に想定し、応用する時間を設定する。 ・サイズ、色、用途などの表現の違いを調べて、ロールプレイングで活用する。
第三学年	【領域:読むこと】 (観点:言語についての知識・理解) 事項との関連 ・語形・語法を理解することができる。	①Let's Read 1 Dolphin Tale (8・9月) ②Let's Read 2 We Can Change Our World (12月) ③Let's Read 3 The Story of Nishikori Kei (1月)	 ①トピックに関連した生徒の身近な話題を使ってプレリーディング活動を行い、英文を読むことに対する抵抗感を軽減させる。 ②教科書本文の内容について生徒に身近な話題から導入し、興味をもたせるような活動をさせる。(ペア、グループでトピックについて自由に話し合い、全体で共有する。関連する動画を視聴する等) ③本文を簡単な表現にリライトし、オーラルイントロダクションをさせる。 ④概要や要点をまとめるタスクで主体的に英文を読む姿勢を育成し、読解力を高めさせる。 ⑤ペアワーク,グループワークによる協同学習で、段落ごとまたは全文の概要を絵や表にまとめさせる。 ⑥内容理解を深めるために要約カードを並べ替えて場面展開を把握するジグソーリーディングさせる。

授業改善プラン 第八中学校 実技教科 授業改善プラン

	1	2
	日常の学習からみられる課題	授業改善の方策 (学習集団を意識した毎日の授業づくり)
音	○授業規律と主体的な学習姿勢	○授業内容や目標を明確に示し、場面ごとにメリハリをつけながら、目的 意識をもって学習環境をつくる。○聴く人に与える影響を考えながら創意工夫をして、自分たちのベストを 尽くせるように意欲的に取り組める力を育む。
楽	○互いに認め高め合う環境づくり	○相互評価の時間を設け、互いの技能・表現に興味関心をもち、批評し合いながら高め合える環境をつくる。
	○基礎技能の習得	○基本的な技能の習得を導入時に行い、授業のねらいを理解させてから本 制作に取り組み、創意工夫への意欲を向上させる。
美術	○自己の課題の達成	○具体的な評価の観点を予め生徒に伝え、毎回、授業のねらいと共に、自 己の目標達成について意識させる。
ni3	○自他共に認め合う環境づくり	○生徒同士の相互評価(鑑賞)の機会を多く取り入れ、互いの個性を認め合う環境をつくる。
保	○授業規律	○整列・挨拶・準備体操・補強運動の一連の学習活動に規律ある行動を促す。
健	○基礎体力の向上	○運動の楽しさを実感させ、基礎体力の向上を目指す。 補強運動、3分間走、投擲動作を柱にして、授業の導入を図る。
育	○思考力の向上	○ペア学習や班・チーム学習などを通して、言語活動を活発にし、思考力 を向上させる。
技術	○基礎的・基本的な知識及び技能の習得	○製作や調理等の手順や設計の根拠について考えることにより深い理解 につなげたり、実習を通して実践する喜びや完成の喜びを味わったりす るなどの活動を充実させる。
家庭	○工夫・創造の能力の向上	○課題解決の場面において、より適した解を求めて意見を交流する場面を 設け、互いの意見を認め合いながら取り入れあうようにし、工夫し創造 する能力を向上させる。

